

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価			
〔1〕 特色ある学校づくりの推進と、「開かれた学校づくり」の推進	* 体験活動と国際理解教育の推進 * ホームページや学年だよりの充実による積極的な情報発信	評価指標 ①適切な体験活動（自然体験、文化体験等）を行うとともに、生徒が学校行事や体験活動に積極的に取り組むように指導する。また、生徒の国際理解を進める教育活動を行う。 ②ホームページアクセス数年間12万件以上。 ③学年だよりを各学年で年間11回以上発行。	評価指標による達成度 ・〈保護者アンケート〉「学校は適切な体験活動ができている」 88.7%（R4：80.0%、R3：61.7%） 〈生徒アンケート〉「学校行事や体験活動に積極的に取り組んでいる」 89.8%（R4：90.7%、R3：88.1%） 〈保護者アンケート〉「学校は生徒の国際理解を進める教育活動ができている」 67.3%（R4：62.2%、R3：66.1%） ・ホームページへのアクセス数は年間12万件以上の見込みである。 ・各学年で学年だよりを年間11回以上発行予定である。	総合評価 B （所見） ・保護者アンケートでは、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」が昨年度より約30%アップの88%（昨年度58.3%）、「学校は保護者と協力して教育活動を行っている」も微増ではあるが3.3%アップの76%（昨年度72.7%）であった。今後も学校行事等に保護者が参加できる機会を設けるとともに、全県一区の県中ならではの連携のあり方を検討・実践していく必要がある。 ・「学校は学校生活の様子を学年だよりで適切に伝えている」90%（昨年度94.3%）「学校は保護者に学校行事の様子をホームページ等で適切に伝えている」84%（昨年度88.1%）については、約4%ダウンであった。発信の工夫等が必要である。 ・生徒アンケートでは、今年初めて「富岡東中学校に入学してよかった」という項目を実施したところ、約93%の生徒が肯定的意見であった。生徒が充実した学校生活を送ることができるよう支援していく必要がある。	○「入学してよかった」「楽しい」という生徒が多いのはよい。声かけ等さらに行っていただきたい。 ○コンサートや、講演会など、生徒の心を揺さぶるような機会をもっと積極的に取り入れてほしい。あわせて、体験学習なども積極的に取り入れてほしい。体験したことは、卒業後しても子どもの心に深く残っている。 ○姉妹校交流での、ホームステイ等が難しい状況であるようだが、今年は韓国研修旅行を企画しているとのこと。海外研修等は学校の目玉となると感じる。	<課題> ○「心・力・夢を育てる中高一貫教育」を実現するため、特色ある学校づくりをさらに推進していく必要がある。 ○「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進し、地域・保護者との連携をより一層深めていく必要がある。 <方策> ○生徒の国際理解を進めるための教育活動について、様々な視点から進めていく。 ○学校関係者の意見、保護者・生徒アンケート結果を尊重し、様々な教育活動の改善を図る。 ○ホームページや学年だよりをさらに充実させるとともに、様々な行事にできるだけ多くの地域住民や保護者に来ていただけるよう、積極的に広報していく。
		活動計画 ・体験活動で地域と連携し幅広い社会的視野と国際性を育てる。 ・ホームページや学年だよりで学校行事や部活動の状況等の取組を積極的に発信する。 ・学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設ける。	活動計画による実施状況 ・1年生の自然体験学習、2年生の修学旅行、その他文化体験活動などを実施することができた。3月に3年生が韓国へ文化交流研修に出かける予定である。姉妹校アルフレッド・ディーキンハイスクールとの交流はオンラインで行った。 ・ホームページに学年だよりの、学校行事、給食だよりの、学校保健等を掲載・発信している。 ・参観授業をはじめ、富東祭、人権コンサート、3年生のリサーチ&レポートなど、保護者が参観できる機会を設けることができた。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔2〕 学力向上への取組の強化と、中高一貫教育の円滑な実施	* 指導内容と指導方法の工夫改善 * 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 * 中高教員が連携した計画的継続的な指導	<p align="center">評価指標</p> <p>①相互授業参観を年間1回以上実施する。 ②授業に積極的に取り組む生徒90%以上。 ③平均学習時間1日2時間以上の生徒70%以上。 ④中学生と高校生の交流活動を年間のべ10日間以上実施する。 ⑤中高の教員が一体となって中高一貫の教育課程について検討する。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p> <p>・年に2回以上の期間をそれぞれ設けて実施した。 A ・〈生徒アンケート〉91.4% A (前年度比 2.5%↑) ・〈生徒アンケート〉37.75% B (前年度比 28.65%↓) ・今年度新たに中学生の高校体験授業を実施した。 A ・中高一貫教育推進検討会を開催し、生徒の現状について情報を共有するとともに、中高一貫教育の特色を生かした教育活動について検討した。 A</p>	<p align="center">総合評価</p> <p align="center">B</p> <p>(所見) ・授業への積極的な取組の項目については、昨年度より2.5%増えたが、平均学習時間1日2時間以上の項目については、肯定的な回答のポイントが昨年度より減少した。宿題をきちんとしていると回答した生徒が92%であり、宿題以外の学習に取り組むことができるよう生徒たちへの支援が必要である。また、今年度初めて実施した「目標をたて、計画的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした生徒は59.7%であった。今後、学習の目的意識を持たせることで、学習意欲の向上と家庭学習時間の増加につなげたい。 ・「富東タイム」の継続的な実施により、英語の聞く力や読む力が定着している。また、俳句を通して情景を表現する力や想像する力を育むことができている。 ・学力向上のためのICT等の活用や学校力向上に向けて、中高が連携を図り取り組んだ。</p>	<p>○「わからないことは先生に質問している」という生徒が少ない点について、どうすればよいか、手法等工夫すれば、生徒の姿も変わってくると思われる。 ○「主体的に勉強することができていない」と自覚している生徒が多い。自ら学ぶ姿勢を確立することができれば、もっと伸びてくると思われる。生徒が自ら学ぼうとする意欲をもつための手立てを考えてほしい。</p> <p>○学習への目的意識を持たせる必要がある。 ○家庭学習時間1日2時間以上が当たり前になるよう意識させる必要がある。 ○中高一貫校ならではの、特色ある教育活動についてさらに検討していく必要がある。 ○キャリアパスポートを活用し、現時点での人生設計について考えることで、学習の目的意識を持たせるようにする。また、その学習意欲を家庭学習の向上につなげる。 ○中高の交流について、生徒間だけでなく、生徒と教職員の交流も活性化できる取組を実施する。</p>
		<p align="center">活動計画</p> <p>・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修等を実施し、指導力の向上を図る。 ・「富東タイム」について、さらに充実した取り組みとなるように努める。 ・RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところを質問する態度を育てる。 ・生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。 ・教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。 ・中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。</p>	<p align="center">活動計画による実施状況</p> <p>・研究授業や公開授業を複数回行い、研究討議を行うなど充実した研修会が実施できた。 ・「富東タイム」では漢字学習、俳句の創作、英語リスニング学習などを実施し、漢字検定や英語検定に多数合格するなど着実な成果があった。 ・年に4回実施した。不合格者には再テストを行うなどの支援を行った。 ・生活実態調査や学習状況実態調査を効果的な時期を考慮して実施し、意欲に向上に努めた。 ・企画マルチメディア課を中心に、中高一貫教育推進検討会を開催するなど中高合同で教育課程や学力向上に関する取り組みを検討する体制が充実した。 ・検討委員会を複数回実施するなど、ICT活用を含めた生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する体制が向上した。</p>		

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔3〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	<ul style="list-style-type: none"> * あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着 * 学校行事の活性化と生徒会活動の充実。 * 安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取り組みの強化 * 生徒一人ひとりの人権感覚の向上 * 環境美化への努力と、環境問題解決の実践力の育成 	<p>評価指標</p> <p>①あいさつがきちんとできる生徒90%以上</p> <p>②遅刻ゼロの生徒90%以上。</p> <p>③学校行事や体験活動に積極的に取り組む生徒90%以上。</p> <p>④生徒会新聞を年間3回以上発行、生徒会による学校活性化イベントを年2回以上開催。</p> <p>⑤人権意見作文発表会や人権教育講演会等の実施。</p> <p>⑥教職員人権問題研修会を実施。</p> <p>⑦日々の清掃活動に積極的に取り組む生徒90%以上。</p> <p>⑧防災に関する全校的な取組を年3回以上実施。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒86.7% (前年度比2.7%↓) B ・〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒96.3% (前年度比2.9%↑) A ・〈生徒アンケート〉学校行事に積極的に取り組む生徒89.7% (今年度からの評価指標のため前年度比なし) B ・生徒会新聞を年間3回発行するとともに生徒会が企画・運営する新規のイベントを2回実施し、学校行事の活性化を図った。 A ・全校での人権意見発表会、人権コンサート、生命の安全教育セミナー、人権映画鑑賞会を実施した。 B ・中高合同による人権問題研修会の実施した。阿南中学校区人権教育研究大会へ全教員が参加した。 A ・日々の清掃活動について、真面目に取り組むことができた。 A ・中・高合同の避難訓練を4回実施。 A 	<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートで、「あいさつをきちんとしている」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が、昨年度と比較して減少している。 ・「毎日、遅刻せずに登校している」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合が、昨年度と比較して、増加している。 ・「学校生活は楽しく充実している」の項目に積極的な回答をした生徒の割合は94.4%であった。 ・人権意見作文発表会では、自分や身近な人権について深く考え、堂々と話す姿から、人権意識の高さを感じることができた。 ・人権意見作文発表会や人権コンサート等では、熱心に耳を傾ける姿が見られ、感想文からも自分の考えを広げたり深めたりしていることがうたがえた。 	<p>○部活動等で高校生と一緒に活動できるところが、本校の魅力である。中学生にとって、先輩から学ぶところは多い。今後も中高での活動を積極的に行ってほしい。</p> <p>○中学校が設置されて来年度は15年目となる。これまでの成果等を検証し、また新たにがんばっていただきたい。</p>	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校活性化に向けて、生徒が主体的に学校行事等に参加する雰囲気醸成していく必要がある。 ○中高一貫校として、中学校入学から6年間を見通した継続的、かつ発達段階に応じた教育計画を立て、様々な人権課題を自分のことと感じて考え行動することのできる生徒を育成する必要がある。 <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動等をおして、リーダーの育成を図る。 ○各学年の生徒の実態に応じた学習すべき個別の人権課題について、講演会や体験活動などを取り入れ、主体的・体験的な学習活動ができるよう工夫していく。また、講演会等には保護者の参加も呼びかけるなど、家庭との連携をはかる。
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会によるあいさつ運動の実施。 ・定期的に生活実態調査を実施する。 ・学校行事や体験活動を計画的に実施。 ・人権や環境問題について、生徒と保護者が共に学ぶ機会を設ける。 ・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権教育や環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する。 ・日々の清掃活動に、生徒と教員が共に、意欲的・主体的に取り組む。 ・防災に関する全校的な取組を企画する。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回の挨拶運動を継続して実施した。 ・生活実態調査を年6回実施した。 ・年度当初の計画に沿って行事を実施することができた。 ・人権コンサートを保護者と共に鑑賞したり、親子で人権標語を作成したりした。 ・富東人権新聞を年6回発行し、中学生の人権作文等を掲載した。また、人権意見発表会や人権コンサートの感想を、学年だよりに掲載した。 ・生徒と教員が共に校内美化に向けて清掃活動に取り組んだ。 ・地震・津波、河川氾濫など、多様な災害を想定した避難訓練を、高校と連携を取りながら企画した。 			